

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	とくしまけんりつじょうとうこうとうがっこう				②所在都道府県	徳島県			
26～30	① 学校名	徳島県立城東高等学校								
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模				
	1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	計	
普通科 (人文社会コース)	321 (40)	321 (40)	40 (40)		682 (120)	普通科	321	321	357	999
(各学年とも人文社会コース生徒を含む)										
⑥研究開発構想名	四国徳島発・人類の健康と環境に貢献するグローバルリーダーの在り方について									
⑦研究開発の概要	持続可能な社会の発展に貢献するグローバルリーダーに必要な態度や素養を習得するため、「四国徳島発・グローバル企業の創造戦略について」を研究テーマに、国際化を推進する大学や企業等と連携して、人類の健康増進と環境保全の観点から考察する。									
研究開発の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>□目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際協調，国際貢献に必要な国際的素養の習得</li> <li>・国際課題を探究する態度やコミュニケーション能力の育成，問題解決能力の育成</li> <li>・自己の相対化による多様な価値観の育成</li> <li>・論文作成能力，プレゼンテーション能力の育成</li> </ul> <p>□目標（育成したい生徒像）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の育成</li> <li>・留学や海外研修により積極的に海外で学ぼうとする生徒の育成</li> <li>・国際化を推進する国内外の大学等でリーダーシップを発揮しようとする生徒の育成</li> <li>・郷土徳島や日本の魅力を探究し，積極的に国際貢献に取り組める生徒の育成</li> </ul> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>キャリア教育の充実を図る目的で，総合的な学習の時間を利用して，生徒が夢や目標の実現に向けて自ら設定した課題を探究しようとする活動，「クエスト」プログラムを実施している。社会の各分野で活躍する職業人による校内ガイダンス，企業や大学を訪問する実地調査，グループ単位での調べ学習やデータ収集，課題研究発表会を行っている。</p> <p>企業や大学と連携して課題研究に取り組むことにより，持続可能な社会の発展に貢献するグローバルリーダーに必要な態度や素養を習得し，卒業後に大学等においてリーダーシップを発揮する人材を育成することが可能になると考える。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外の学校や企業が集まる場における課題研究発表</li> <li>・フランスの姉妹校サン・ジョセフ校とのディスカッション等による研究成果の発信</li> <li>・課題研究集録の作成，配布</li> </ul>								
	⑧-2 課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>●研究テーマ「<u>四国徳島発・グローバル企業の創造戦略について</u>」</p> <p>本県には積極的なグローバル展開を行っている大塚グループの発祥会社である大塚製薬と日亜化学工業の本社がある。世界的な企業でありながら，四国徳島を発祥とし，ローカルに根付いて活動している企業である。現に大塚グループの多くが徳島に生産工場を有しており，日亜化学工業に採用される新規高等学校卒業者のうち，およそ9割は徳島県内の高等学校に在籍していた生徒である。また，これらの企業は海外に多くの営業拠点を持っているが，各国・地域の文化に根ざしダイバーシティ（多様性）を尊重しながら，企業経営を行っている。</p> <p>本校では，本県の風土や文化，あるいは各国のそれに根ざしながら，世界規模で事業展開を行う，<u>グローバル化とローカル化を兼ね備えた「グローカリゼーション」な活動の中</u>にこそ，<u>グローバルリーダーに求められる資質を見出すことができるのではないかと考えており</u>，次の4項目について人類の健康増進と環境保全の観点から考察，発信していくことにより，グローバルリーダーに必要な態度や素養を習得する。</p>								
⑧-2 課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方に拠点を置く企業のグローバル化に取り組む意図や目的・戦略を研究し，自分たちが考えるグローバル戦略を策定，提案する。</li> </ul>									

<p>題 研 究</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルブランドの開発・研究の過程を調査し、新しいブランドの企画を提案する。</li> <li>・グローバル化が企業や世界に与えた社会的・経済的・政治的影響を研究し、今後の世界の潮流を予測する。</li> <li>・企業のCSR活動（社会問題・環境問題など非財務的課題への取組）の実態と方向性を学び、自分たちが考えるCSR活動を提案すると共に、今後の在り方について探究する。</li> </ul>
	<p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>1. 教育課程の基準の特例を活用した取組</p> <p>①公民科「21世紀を生きる（1単位）」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル社会における社会，経済，政治の動向</li> <li>・経済における相互依存関係の深まり</li> <li>・グローバル社会における我が国の果たすべき役割と日本人に求められる生き方など</li> </ul> <p>②外国語科「Current English（1単位）」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英字新聞や企業HPなどによる時事的な情報を読み取る能力と知識の育成</li> <li>・英語で意見を述べ議論ができる能力，他者へのインタビュー技法の育成</li> <li>・MOOCs（公開オンライン講座）を活用した研究テーマ関連講座受講</li> </ul> <p>③総合的な学習の時間（1単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業のグローバル展開の取組状況について実地研究</li> </ul> <p>④保健体育科「Global Health（1単位）」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人々の健康と環境についての学習の実施（公益社団法人日本WHO協会など）</li> </ul> <p>2. 連携する大学・企業等との取組及び各省庁等，関係機関への訪問による国内調査</p> <p>(1) 大阪大学，徳島大学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国際政治」や「国際経済」などの専門性の高い講義の実施</li> <li>・「グローバル化と地域社会への影響について」出張授業やMOOCsの受講</li> <li>・海外からの留学生との意見交換</li> </ul> <p>(2) 大塚グループ，日亜化学工業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該企業の海外営業部門，商品開発部門での国内インターンシップ</li> <li>・当該企業の日本人海外勤務経験者，外国人スタッフを講師に招いた授業の実施</li> <li>・当該企業の海外営業所での海外インターンシップ</li> </ul> <p>(3) 外務省，文部科学省，公益社団法人日本WHO協会など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各省庁への訪問による，ODAの在り方や知的国際貢献の現状等に関する国内調査の実施</li> <li>・日本WHO協会と企業とが連携して行う，健康に関する社会貢献活動に関する取材活動</li> </ul> <p>3. フランスのサン・ジョセフ高校との共同研究及びル・アーブル市を訪問しての実地研究</p> <p>(1) サン・ジョセフ高校との「環境課題」等に関する共同研究</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>本校訪問時及び共に京都に移動して実施する両国の「歴史と環境課題」等についての情報交換</li> <li>前項a実施後の両校の研究に基づき，サン・ジョセフ高校を訪問して行うディスカッション</li> </ol> <p>(2) ル・アーブル市を訪問して行う，「健康と環境」に関する取材活動等の実地研究</p> <p>4. 検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業関係者，医療関係者，NPO，行政機関等の委員から成る運営指導委員会を組織</li> <li>・県教育委員会の公民，外国語，保健体育，総合的な学習の時間の各指導主事等からの指導助言</li> <li>・2年次における県内での「課題研究発表会（日本語版）」の開催</li> <li>・3年次における四国内の指定校が参加する「課題研究発表会（英語版）」の開催</li> <li>・県内外企業100社以上が参加する「ビジネスチャレンジメッセ」個別ブースでの取組発表</li> <li>・課題研究集録の作成，配布</li> </ul> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>「総合的な学習の時間（1単位）」と「情報の科学（1単位）」を減じ，人文社会コースの2年次に「課題研究：グローバルリーダー論（2単位）」を実施する。</p>
<p>⑧ -3</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施用法・検証評価</p> <p>県単事業「『NIPPON』探究スクール事業」の研究指定校（H25～H26）として，「板東俘虜収容所と徳島県の大正デモクラシー」を研究し，国際的な視野の涵養に取り組んでいる。</p>
<p>⑨</p>	<p>その他特記事項なし</p>

ふりがな	とくしまけんりつじょうとうこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	徳島県立城東高等学校		

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:							480人
	SGH対象生徒以外:		16人	26人				—
目標設定の考え方: 最終目標を, SGH対象生徒(全校生徒)の50%以上に設定。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:							96人
	SGH対象生徒以外:		2人	1人				—
目標設定の考え方: SGH対象生徒(全校生徒)の10%程度を最終目標に設定。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							100%
	SGH対象生徒以外:		40%	40%				—
目標設定の考え方: SGH実施5年目で, SGH対象生徒(全校生徒)の80%以上を目標に設定。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:							192人
	SGH対象生徒以外:		18人	30人				—
目標設定の考え方: SGH対象生徒(全校生徒)の20%を最終目標に設定。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:							100%
	SGH対象生徒以外:		13%	13%				—
目標設定の考え方: 英検2級以上またはTOEIC550点以上の取得生徒の割合								
(その他本構想における取組の達成目標) 英語または日本語での弁論大会・ディベート大会やエッセイ等のコンテスト入賞者数								
f	SGH対象生徒:							96人
	SGH対象生徒以外:		4人	12人				—
目標設定の考え方: SGH対象生徒(全校生徒)の10%に設定。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:								100%
	SGH対象生徒以外:	85%	82%						—
目標設定の考え方: 最終目標を, 全生徒の100%に設定。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:								29人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人						—
目標設定の考え方: 最終目標(国内の大学へ進学後に進学する生徒を含める)を全校生徒の3%程度に設定。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:								100%
	SGH対象生徒以外:	—	—						—
目標設定の考え方: 指定5年目移行は, SGH対象生徒(全校生徒)の95%以上に設定。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:								144人
	SGH対象生徒以外:	—	—						—
目標設定の考え方: 指定1年目の生徒が大学に入学するH29に対象生徒(全校生徒)の約15%, に設定。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人						60人
目標設定の考え方: 指定1年目に複数名, その後, 10名以上に増加させる。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	—	45人						120人
目標設定の考え方: 最終目標を対象生徒(全校生徒)の30%に設定する。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	0校						5校
目標設定の考え方: 指定1年目にハーバード大学生と連携した取組を開始して, その後拡充していく。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	8人	6人						80人
目標設定の考え方: 特定の時期に2~3回実施している現状を改善し, 指定3年目までに延べ80人の目標設定。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	2人	4人						80人
目標設定の考え方: 現在の20倍増を目標設定。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	7人	12人						144人
目標設定の考え方: 指定1年目に5%, 最終目標は15%で設定。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	48人	26人						80人
目標設定の考え方: 長期・短期両方での受入れ延べ人数を1クラス程度から倍増させていく。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	0回						6回
目標設定の考え方: 学校内、学校外(県内、県外、海外)へと発表場面や視聴対象者を拡大していく。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 指定3年目までに充実した内容で整備をする。								
(その他本構想における取組の具体的指標) 英語または日本語での弁論大会・ディベート大会やエッセイ等のコンテスト参加者数								
j	12人	10人						200人
目標設定の考え方: 指定1年目に延べ参加者数を40名(1クラスの生徒が最低1回)から, 最終目標は5倍増加させる。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	1,034	999					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							